

1. 件名「新規基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（東海第二（146）」
2. 日時：平成29年5月16日 10時00分～12時30分
3. 場所：原子力規制庁 18階C会議室
4. 出席者

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

山口安全管理調査官、金子管理官補佐、津金管理官補佐、皆川安全審査官、
小林安全審査官、竹内技術参与

（安全技術管理官（シビアアクシデント担当）付）

堀田統括技術研究調査官、小城技術研究調査官

事業者：

日本原子力発電株式会社：発電管理室 副室長 他12名

5. 要旨

- (1) 日本原子力発電株式会社から、東海第二発電所の重大事故等対策の有効性評価（格納容器破損防止対策）のうち、溶融炉心・コンクリート相互作用（MCCI）及び原子炉圧力容器外の溶融燃料-冷却材相互作用（FCI）の対策について、これまでの審査会合及びヒアリングにおける指摘事項を踏まえて説明があった。原子力規制庁から、主に以下の点について指摘を行った。
 - 通常運転時におけるペDESTAL内の水位管理方法について、この方法を採用した場合でも、漏えい量の検知に係る保安規定上の要求を満足できることを整理した資料を提示すること。
 - 機器ドレン配管等のペDESTAL内への流入経路とコリウムシールドの位置関係や排水に係るスワンネックの構造も含めて、ペDESTAL内及びその周辺の構造・配置を整理した資料を提示すること。
 - ペDESTAL内の水位管理に係る排水処理について、ドライウェルとサプレッション・プールとの差圧やベント管水没など、想定される条件においても排水が確実に実施可能であることを整理した資料を提示すること。
 - 事故発生から原子炉圧力容器破損までのペDESTAL流入水の排水評価について、流入経路を含めた評価想定、及び排水経路の勾配の考え方を含めた評価内容を整理した資料を提示すること。
 - ペDESTAL内の水位管理のためのスワンネックについて、ペDESTAL内に落下する可能性のある異物対策を含めて設計方針を整理した資料を提示すること。
 - ペDESTAL内に設置するデブリ検知器及び水位計について、仕様及び耐環境性を整理した資料を提示すること。

(2) 日本原子力発電から、本日の指摘について了解した旨の回答があった。

6. その他

提出資料：

- ・東海第二発電所 ペDESTALでの物理現象発生に対する対応方針（添付資料）